



RIDE ON EXPRESS
HOLDINGS

**2021年3月期
通期決算補足説明資料**

2021年5月14日

株式会社 ライドオンエクスプレスホールディングス
(証券コード：6082)

連結業績推移 – 通期累計

21.3期 通期業績

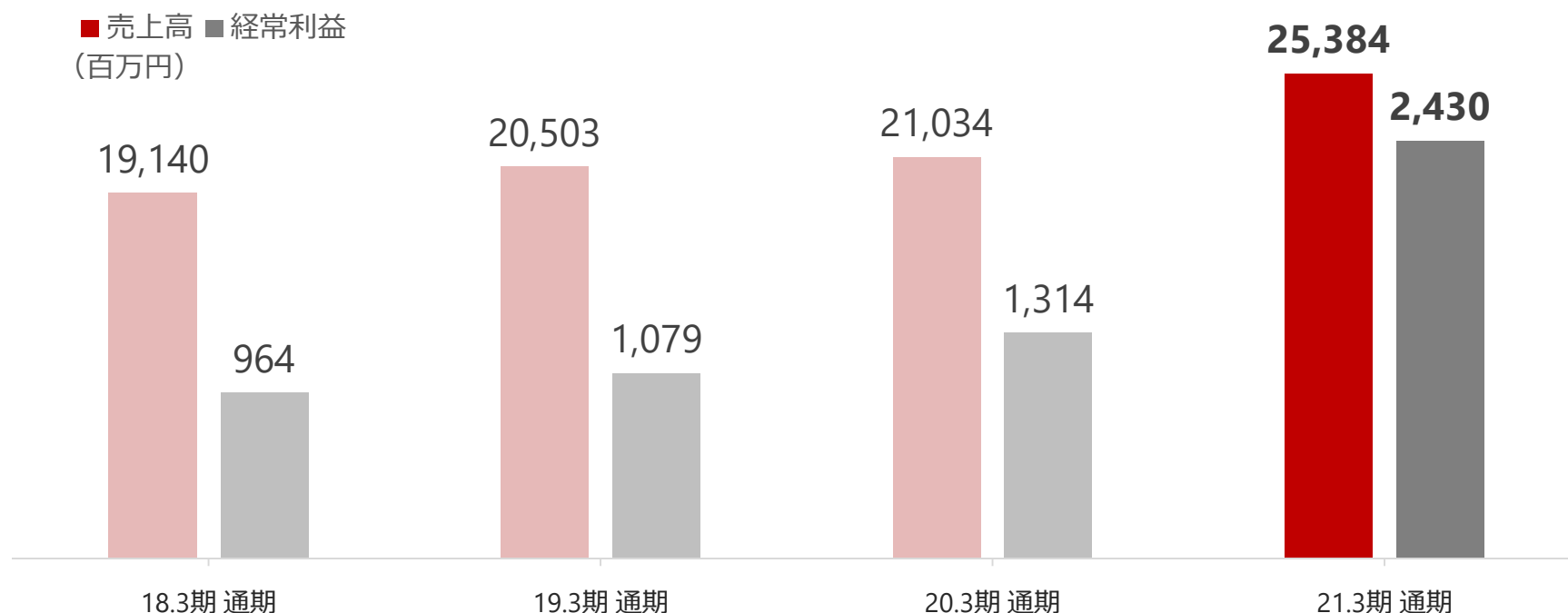
新型コロナウイルス感染症によるデリバリー需要増で増収増益

<売上高> 前期比+4,349百万円、増減率+20.7%

- 新型コロナウイルス感染症による外出の自粛拡大により、フードデリバリーへの需要が増加した結果、注文数増により増収。

<経常利益> 前期比+1,116百万円、増減率+84.9%

- デリバリー需要増加に伴い売上が増加したこと、かつ有価証券の売却益などにより、経常利益は増益となる。



連結業績推移 – 第4四半期

21.3期 4Q業績

引き続き新型コロナによるデリバリー需要増により増収増益

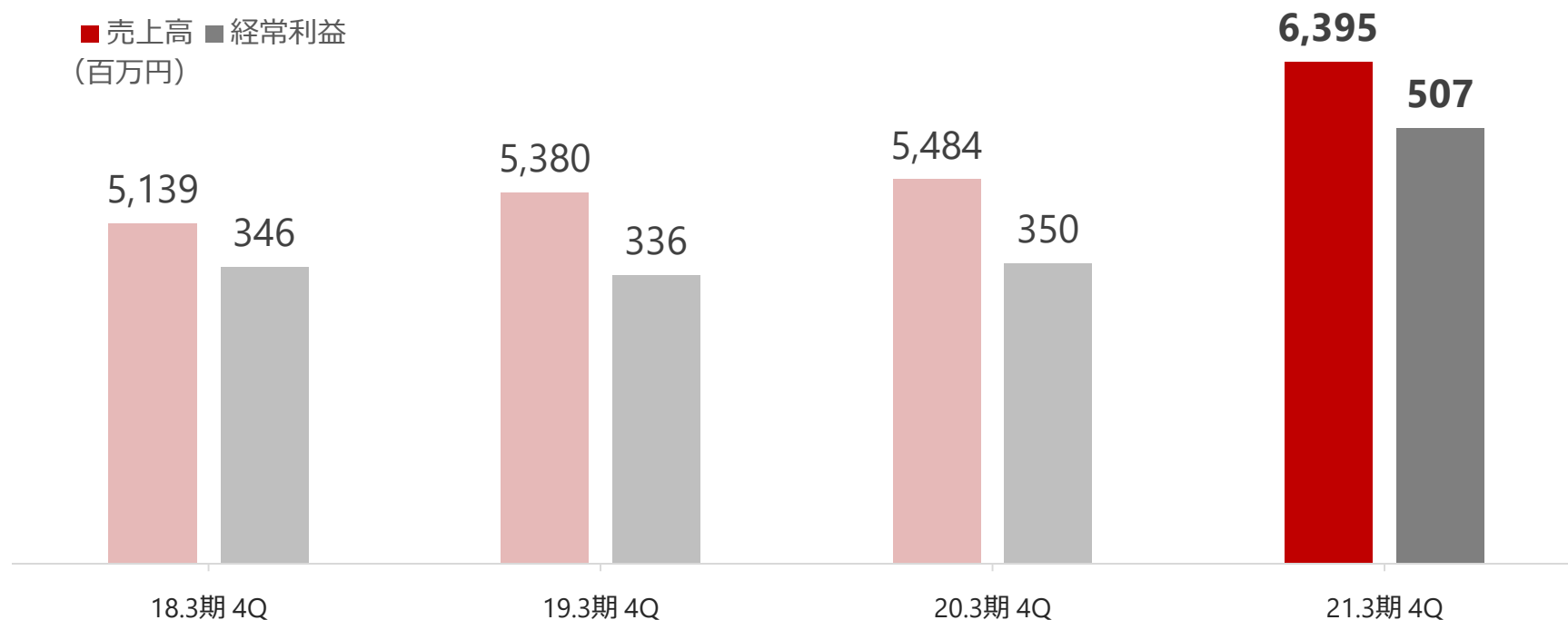
<売上高> 前期比+910百万円、増減率+16.6%

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、年末年始の帰省などの人の移動が無くなったことによる、ハレの日需要の減少が見られたものの、フードデリバリーの個人需要は引き続き増加したことで増収。

<経常利益> 前期比+156百万円、増減率+44.6%

- デリバリー需要増加に伴う売上増加により経常利益は増益。

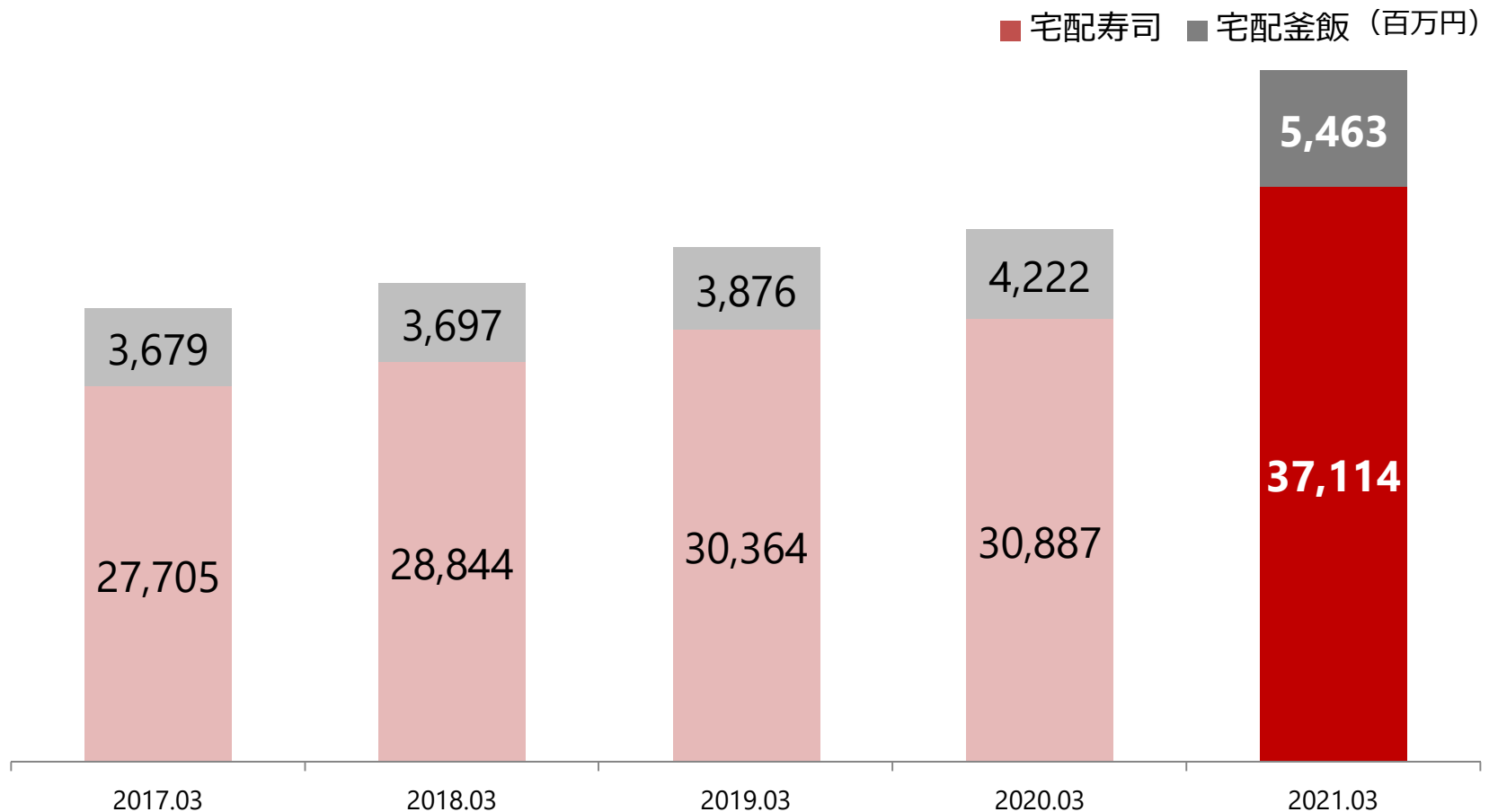
■ 売上高 ■ 経常利益
(百万円)



当社チェーン総売上高 - 既存事業

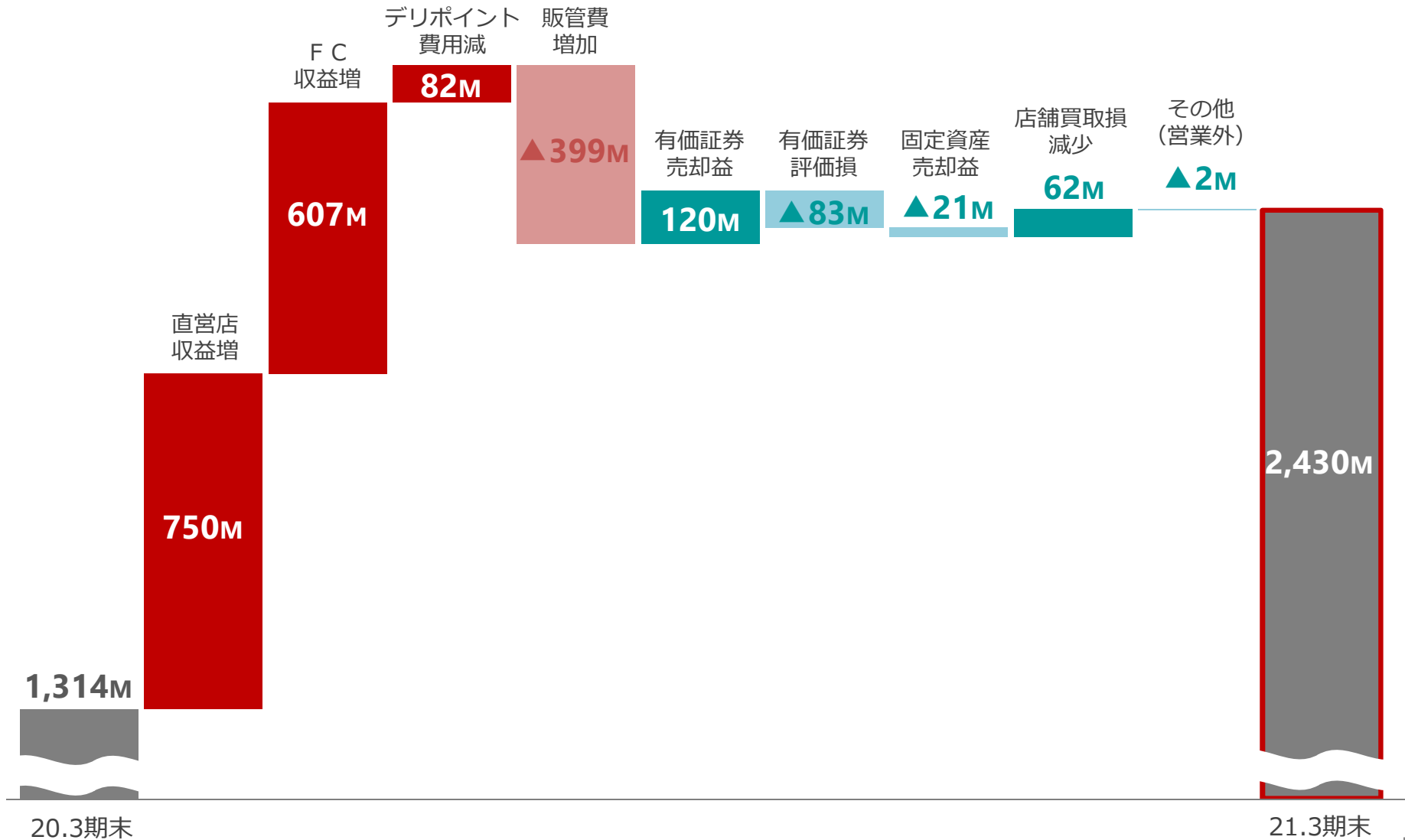
宅配寿司、宅配釜飯の合算チェーン売上高が、400億円を達成

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出の自粛や、飲食店の休業などを受けて、フードデリバリーへの需要が増加。それに伴い、チェーン売上高は前年を大きく超えて推移。



経常利益の前期比増減の構成 通期

新型コロナウイルス感染症の影響により、既存事業が引き続き好調に推移



店舗数・拠点数の増減

ファインダインの配達リソースを集中すること等により、店舗数は7店舗減少

事業形態	ブランド	20.3期末 店舗数	出店	閉店	21.3期末 店舗数
宅配事業	銀のさら	356	2	△1	357
	釜寅	198	4	△1	201
	すし上等！	148	－	△1	147
宅配代行業	ファインダイン	44	－	△10	34
その他	和食レストラン	2	－	－	2
合計		748	6	△13	741

	20.3期末 拠点数	拠点開設	拠点閉鎖	区分変更	21.3期末 拠点数
直営店	102	1	△3	1	101
FC店	265	－	△1	△1	263
合計	367	1	△4	0	364

連結B/S 対前期末

当四半期純利益計上等で総資産+1,799百万円。自己資本比率59.9%（前期末55.9%）

(単位：百万円)	20.3期末	21.3期末	前期比	ポイント
流動資産	6,807	8,482	+1,675	資産 +1,724百万円
(うち現預金)	3,994	5,259	+1,264	----- 【流動資産】+1,675百万円
有形固定資産	905	891	△14	• 現金及び預金 +1,264百万円
無形固定資産	429	486	+57	• 売掛金 + 154百万円
投資その他資産	2,447	2,453	+6	• 未収入金 + 109百万円
資産合計	10,589	12,314	+1,724	• その他 + 177百万円
流動負債	3,338	4,040	+701	【固定資産】+49百万円
(うち1年内有利子負債)	440	440	±0	• 無形固定資産 +57百万円
固定負債	1,328	893	△434	負債 +267百万円
(うち1年超有利子負債)	832	392	△440	----- 【流動負債】+701百万円
負債合計	4,667	4,934	+267	• 未払法人税等 + 315百万円
株主資本	5,889	7,301	+1,411	• 買掛金 + 202百万円
純資産合計	5,922	7,380	+1,457	• 未払消費税等 + 121百万円
負債・純資産合計	10,589	12,314	+1,724	• 未払金 + 87百万円
				【固定負債】△434百万円
				• 長期借入金 △440百万円
				純資産 +1,457百万円
				----- 【株主資本】+1,411百万円
				• 当期純利益 +1,497百万円
				• 新株式の発行 + 123百万円
				• 配当金支払額 △ 210百万円

21.3期 4Qトピックス

- 大好評の「エビキャンペーン」を実施
 - 2021年2月にプリプリの身質とエビの甘みが口いっぱい広がる大型のエビを「生・炙り」の2種類で堪能できるキャンペーンを実施しました。



- お客様への感謝を込めて "創業祭"キャンペーン
 - 「銀のさら」が創業した2000年当時の人気桶『駿河』が、2月15日(月)~3月21日(日)の期間限定で約7年ぶりに復刻いたしました。



- 「#元気いただきますプロジェクト」賛同企画 全身トロのような『愛媛県産 媛スマ』
 - 農林水産省の国産農林水産物等販売促進緊急対策「#元気いただきますプロジェクト」に賛同する取り組みとして、“幻の高級魚”と呼ばれる希少魚『愛媛県産 媛スマ』（よみ：ひめすま）を期間、数量限定で販売いたしました。



- 釜寅のレギュラーメニューを、より良いものに変更いたしました。
 - お客様から頂いたご意見、現状の実績を踏まえて、カキ釜飯の品質をより良いものにするため、一部変更を行いました。



通期業績予想 – 連結

売上高237億円（前期比△6.4%）、経常利益18.0億円（前期比△25.8%）

- 新型コロナウイルス感染症によるデリバリー需要は前年並みと推定。
- 但し、21.3期第1四半期の緊急事態宣言による特需効果は除外。

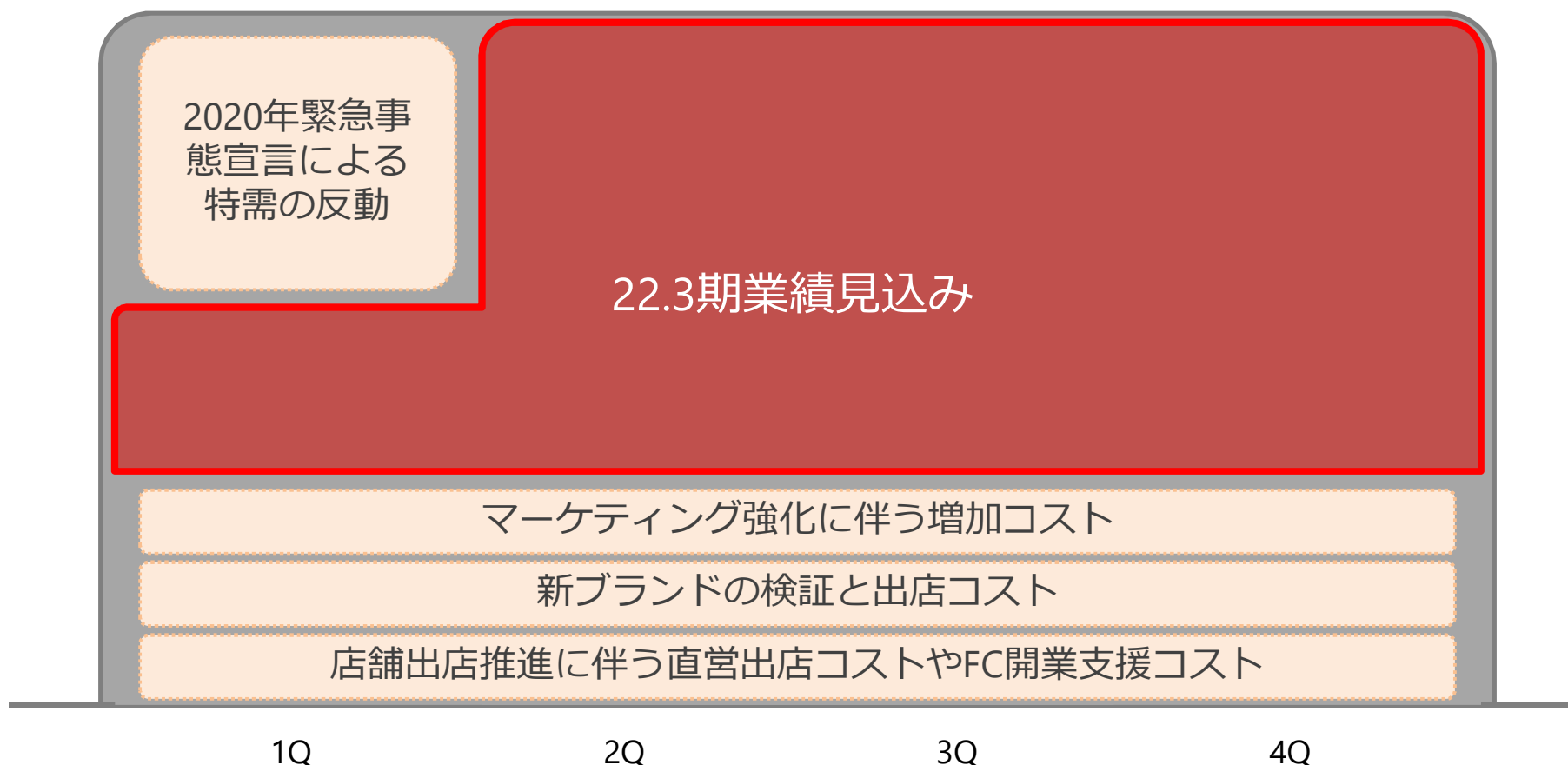
※百万円未満切捨て、%は小数点第2位で四捨五入

(単位：百万円)	21.3期 通期 実績(連結)	22.3期 通期 予想(連結)	前期比
	下段： 売上構成比%	売上構成比%	前期増減率%
売上高	25,384	23,762	△1,621
	-	-	△6.4%
営業利益	2,419	1,803	△615
	9.5%	7.6%	△25.4%
経常利益	2,430	1,802	△627
	9.6%	7.6%	△25.8%
当期純利益	1,497	1,140	△357
	5.9%	4.8%	△23.9%
1株当たり当期純利益	140.85円	106.43円	△34.42円

通期業績予想 – 業績見込み概要

- 新型コロナウイルス感染症によるデリバリー需要は前年並みと推定。
- 但し、21.3期第1四半期の緊急事態宣言による特需効果は除外。
- 第2四半期以降の収益は前年並みを見込むものの、今後の業績拡大に向けた各種コストは積極的に投下し、中期的な成長を目指す。

■ 21.3期業績 ■ 22.3期業績見込み



ディスクレイマー



当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予測なしに変更する可能性があります。

また、本資料には、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測ならびにリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報、将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。